

『意欲的に取り組み、自ら追究する児童の育成』  
「国語力」を育てる国語科の授業づくりを通して

研究の目標

国語科の学習において、「読む能力」を身に付けさせる指導方法を研究し、工夫・改善することにより、子どもたちの「国語力」の向上を図る。

I 研究の内容

1 学習会

(1) 『国語力向上について』 講師 総合教育センター研修主事 宇野 誠先生

2003年度に実施したPISA読解力問題(15歳児対象)の一部を実際に自分たちでも解いてみながら何が課題になっているのかを教えていただいた。論理的な関係性を分析・解釈する力が低い。勉強する時間と読書の時間が低い。無答率の高さが問題→集中力・意欲の無さ→小学校で身につけなければならないことは何なのか考えていかなければならない。

これからの教育は「語彙の力」がキーワードとなる。情緒力(感じる力)は低学年から、論理的な思考力(考える力)は高学年からというように、発達段階に応じた国語教育を行う必要がある。「語彙力」を増やすためにも読書が重要である。

(2) 『国語科「読むこと」の学習指導方法について』

講師 峡東教育事務所指導主事 泉 久功先生

学習指導要領の目標と子どもたちの実態を考え合わせ、どんな力をつけたいのかを考え、必ず目指す言語能力を示すことが大切。そして、子どもたちに、その学習の意識づけをすることが重要である。「5つの言語意識」は相手意識・目的意識・場面意識・方法意識・評価意識であることや、読解指導の陥りやすい問題点や文学の授業における「三つの授業タイプ」、基本的指導過程等についても教えていただいた。

2 授業実践

(1) 国語科 教材名「三年とうげ」 授業者 酒井洋子

目指す言語能力 物語のおもしろさを発見しながら読む力

この授業を通して、子どもの実態に応じた目標設定の大事さ、3・4年生の叙述に即して読むということは『言葉への気付きを大切に、文脈における言葉の意味、語感など幅のある理解や読みとりを通して表現の役割や価値をとらえていこうとするものである。』ということが確認できた。また、授業に集中させるために読み方の工夫も見られた。板書も非常にわかりやすく、おじいさんの気持ちの変化をチョークで黒板いっぱいに入力したことは子どもたちの

視覚に訴えることができ効果的だった。

(2) 国語科 教材名「お手紙」 授業者 飯室美華

目指す言語能力 場面の様子や登場人物の気持ちを想像しながら読む力  
教科書の全文が拡大コピーされ、教室内に掲示されており、学習する雰囲気  
気が盛り上がっている中で授業が行われた。かえるくん、がまくんの役割読み  
や声ことば、体ことばの取り入れの工夫により、子どもたちは楽しく生き生き  
と活動できた。本時のねらいは児童の想像力を豊かにすることである。このよ  
うな授業では①始めに読んで自由に想像する段階→ ②読み取り方の異なる部  
分は根拠や理由を話し合いながら、想像力豊かに思い描く→ ③読書意欲や表  
現意欲へ発展をしていくような展開が望ましいということである。この授業を  
通して、友だちの発言をいかに大事に聴くか、聴いて、考えて、つなげる授業  
の大切さを学んだ。

(3) 国語科 教材名「わらぐつの中の神様」 授業者 本宮知子

目指す言語能力 登場人物の人柄や場面の様子、情景を叙述に即して読  
む力

温かい雰囲気の中で児童が主役の分かる授業が展開された。初発の個人の  
課題、班の課題、教師側からの課題「マサエの気持ちはどう変化したのか」を  
しっかりつかみ、本時の目標である大事な言葉に線を引いたりしながら考えたり  
することができた。そして、まず自分の考えをもち、班活動の中で意見交換・  
全体で発表・共有と学習形態も工夫する中で課題解決することができた。この  
教材を使ってどんな力を付けていきたいのか、どの表現を取り上げて、どんな  
授業をしようかとしっかり分析をし、そのために本文をどの場面で区切ったら  
よいか考えてワークシートも効果的に活用することができた。

## II 成果と課題

- ・講師を招聘しての学習会を2回行い、学習指導要領に示された「読むこと」の  
内容についての学習会や5つの意識（目的・相手・方法・場面・評価）につい  
ての研究会を行った。これらにより、学習指導方法について統一見解をもつこ  
とができ、授業実践に生かすことができた。
- ・3つの授業実践を通して、どんな力を付けたいのかを授業者は明確にもち、言  
語能力に関わる児童一人一人の実態を明確に分析すること、表現の分析をしつ  
かり行うこと、具体的な支援の方法をしっかりと描いておくこと等が確認された。
- ・読む力を支える日常の指導として国語辞典を一人一冊持ち、随時活用する環境  
づくりに取り組んだ。その結果、国語科の授業を始め、社会科や総合的な学習  
等、分からない言葉の意味や漢字を調べるのに楽しく活用し始めている。また、  
読書については、いろいろな本を幅広く読むということについてはまだ課題は  
残るが、さらに読書の楽しさを知らせていきたい。

(研究主任 森澤あけみ)